

26年12月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 11月20日～ 26年12月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
入荷動向	スギ	△ 40.0	△ 25.0	25.0
	ヒノキ	0.0	33.3	0.0
	カラマツ	△ 25.0	33.3	0.0
	トドマツ	△ 33.3	33.3	33.3
消費動向	スギ	△ 40.0	△ 25.0	25.0
	ヒノキ	△ 66.7	△ 33.3	33.3
	カラマツ	△ 20.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 33.3	0.0	0.0
在庫動向	スギ	20.0	0.0	0.0
	ヒノキ	33.3	33.3	33.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ原木の入荷は12月、27年1月の減少が2月は増加に、ヒノキは12月の横ばいが27年1月は増加し、2月は横ばい、カラマツは12月の減少が27年1月は増加し、2月は横ばいに、トドマツは12月の減少が、27年1月、2月には増加に。
・スギ及びヒノキ原木の消費は12月、27年1月の減少が2月には増加に、カラマツ及びトドマツは12月の減少が27年1月、2月は横ばいに。
・スギ原木の在庫は12月の増加が27年1月、2月は横ばい、ヒノキは3ヵ月連続して増加、カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/12月	27年1月	2月
スギ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	0.0	25.0	25.0
米マツ	50.0	50.0	25.0
北洋カラマツ	75.0	66.7	0.0
その他	—	—	—

・スギ及びヒノキの合板用原木価格は、3ヵ月連続して横ばいで推移、カラマツは12月の横ばいから27年1月、2月はやや強保合に、米マツ及び北洋カラマツは強含みで推移するが、北洋カラマツは2月には保合に。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・カラマツ、トドマツは、国有林の請負事業が遅れ気味、12月の入荷が前月と同じ位、1月からは入荷増を見込んでいる。在庫は冬期間は増える。
・生産に合わせて入荷。消費・在庫はほぼ横ばい。
・雪による影響で入荷が心配。年末休暇及び生産調整継続のため消費減に。
・生産計画通り入荷。冬季、安定供給対策促進中。生産計画通り消費、在庫も計画通り。
・11月は天候も良く、出材も順調。12月は年末の休みが入るため入荷は減少。11月は予定通り消費、12月は年末休暇で15%~20%の消費減。消費量が減るので在庫は増加。

(原木価格)

・スギ横ばい。カラマツ強含み横ばい。北洋材現地価格は横ばい、為替円安で上昇。
・カラマツの取り合い、バイオマス用への心配、外材為替の影響あり。
・ほぼ横ばい、27年1月~3月については12月中旬調整を図る。
・国産材は、入荷状況を見ながら価格を変更、輸入材は産地価格は下げているが、急激な円安のため円単価は上昇。

26年12月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
生産動向	構造用(9mm)	△ 60.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 16.7	0.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 50.0	0.0	0.0
	〃 (24mm)	△ 83.3	0.0	0.0
	〃 (28mm)	△ 66.7	0.0	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	△ 20.0	0.0	△ 33.3
	〃 (12mm)	33.3	0.0	△ 20.0
	〃 (15mm)	16.7	0.0	△ 20.0
	〃 (24mm)	△ 33.3	0.0	△ 20.0
	〃 (28mm)	△ 16.7	0.0	△ 20.0
在庫動向	構造用(9mm)	△ 20.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 16.7	0.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 16.7	20.0	0.0
	〃 (24mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (28mm)	0.0	0.0	0.0

・合板の生産は、全品目で12月の減少から27年1月、2月は横ばいに。

・9mm、24mm及び28mmの出荷は12月減少、27年1月横ばい、2月は減少、12mm及び15mmは12月の増加、27年1月横ばい、2月は減少へ。

・9mm及び12mmの在庫は12月の減少が27年1月、2月は横ばいに、15mmは12月の減少が27年1月は増加し、2月は横ばいに、24mm及び28mmは3ヵ月連続して横ばいに。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/12月	27年1月	2月
構造用(9mm)	△ 60.0	25.0	25.0
〃 (12mm)	△ 66.7	20.0	20.0
〃 (15mm)	△ 66.7	20.0	20.0
〃 (24mm)	△ 83.3	20.0	20.0
〃 (28mm)	△ 83.3	20.0	25.0

・構造用合板出荷価格はどの品目も12月の弱含みから27年1月、2月は強保合に。

モニターからのコメント

(合板荷動き)

- ・若干生産減、思いのほか動き良い、適正在庫。
- ・減産継続で横ばい、品目により増減はあるがトータルは横ばい。出荷、在庫は11月末頃からトラック手配に苦戦しており増加。
- ・生産調整。受注好調、トラック手配難。在庫はアイテムにより欠品も。
- ・品種により減産もあり得る、出荷量に応じた生産体制。出荷は11月後半にかけて減少傾向、当月も11月同様の出荷量と思われる、引合いに応じたトラック手配に苦戦している状況。11月後半、出荷量減により在庫が多少増、年末年始、稼働日が少ないことから現時点適正在庫。
- ・年末年始で生産量は減るが、設備投資の影響で1月以降は生産増える。1月以降、増産分は販売を増やす、ただ、トラックが取れない影響次第では出荷が減る。注文は多いが、トラックが取り難い、トラック次第で在庫は増える。

(合板価格)

- ・価格に変化あり(弱い)。
- ・プレカット工場受注減により多少24mm、28mmが下がっている。
- ・コストUPにより上値へ。
- ・全品目値下がり状態、原料、物流コスト高に対応出来る価格を望む。
- ・消費税UPは先送りされたが、九州は順調に製品が動いている。本州の価格低下の影響も、さすが底値であることから、これ以上の値下げは考え難い。